

未来投資会議 構造改革徹底推進会合 「第4次産業革命」会合（PPP/PFI）

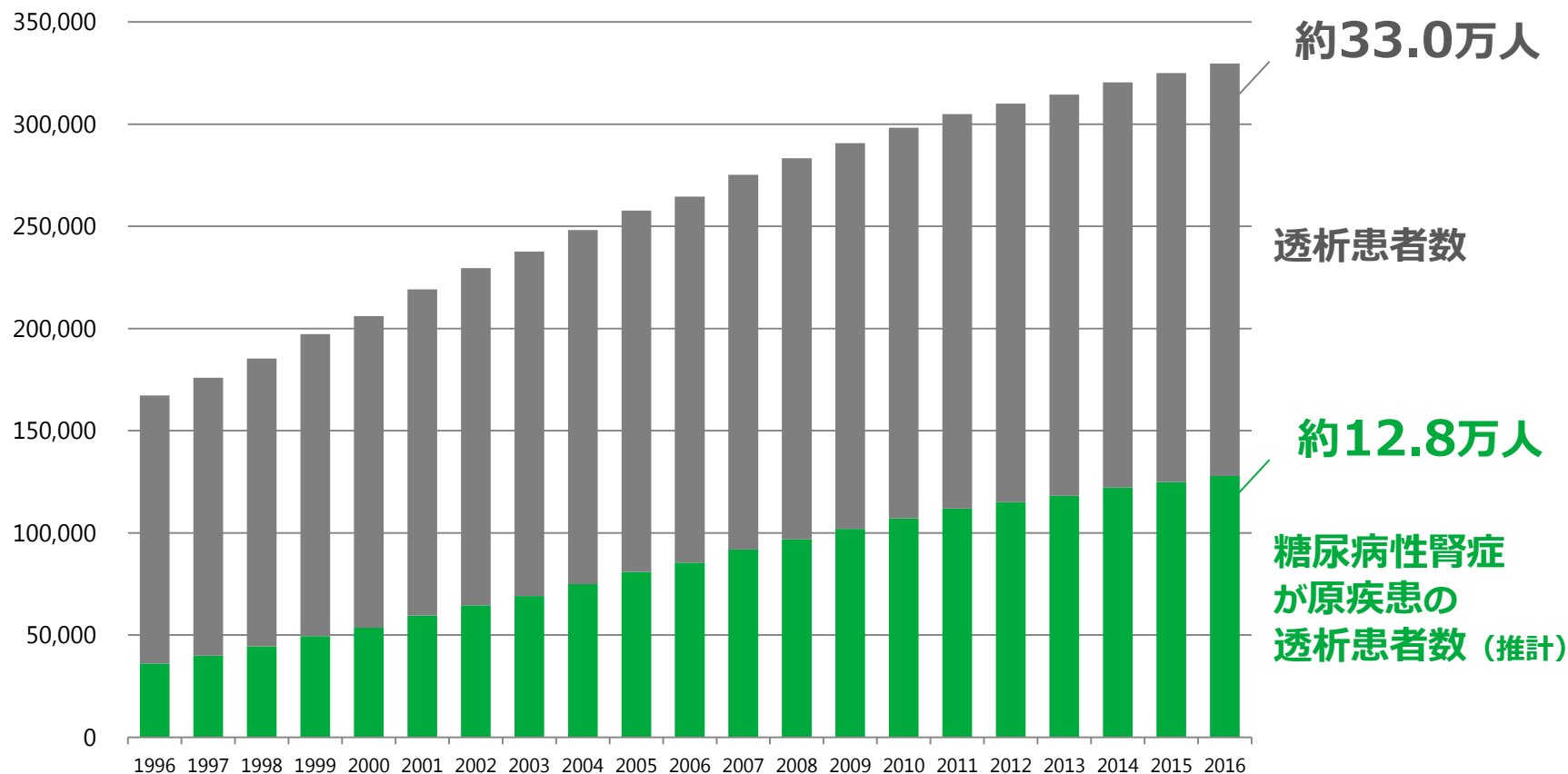
神戸市におけるSIBを活用した 糖尿病性腎症等重症化予防事業

平成30年2月27日

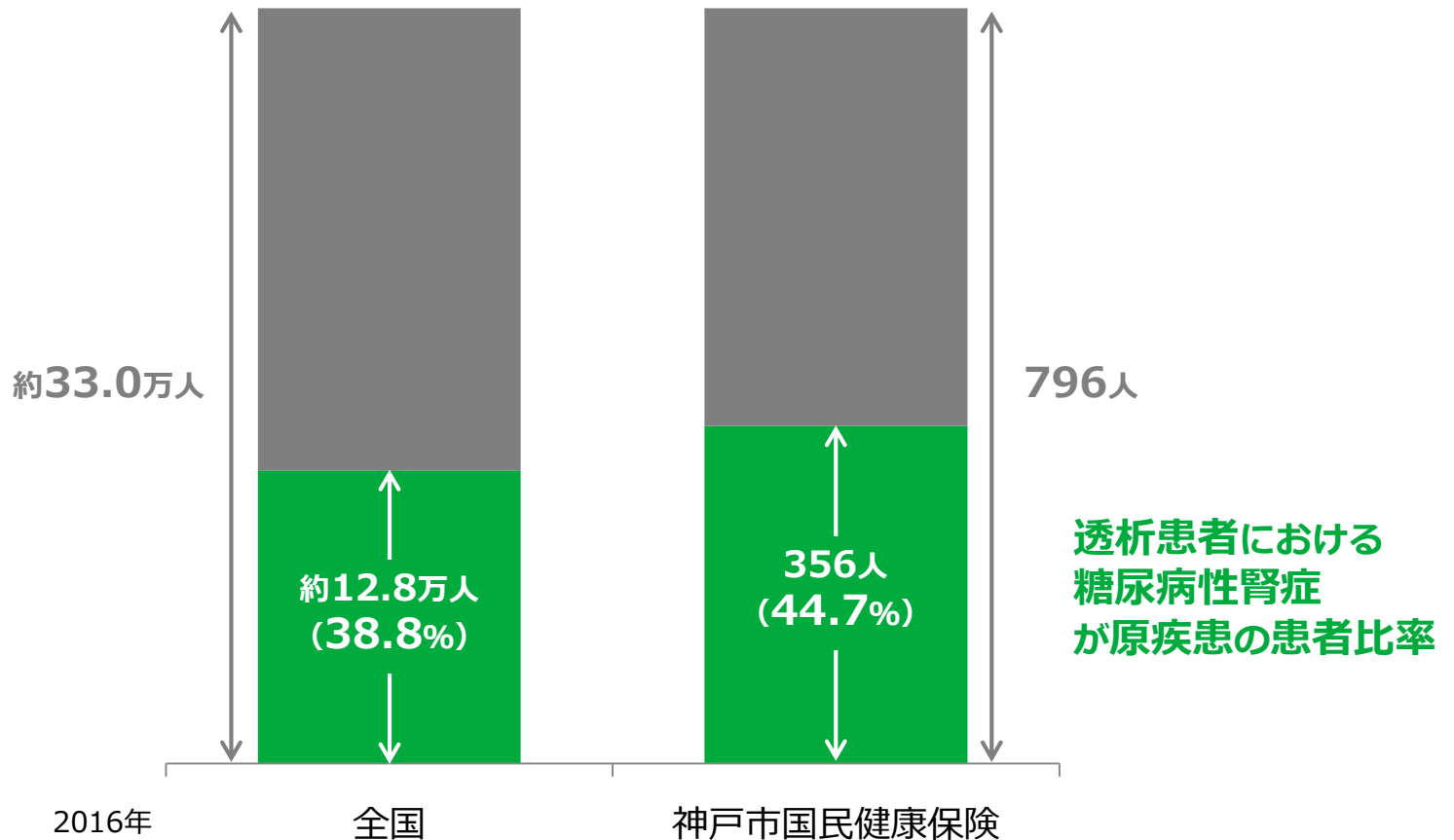
背景：透析患者数の推移と原疾患

全国の透析患者数はこの20年間で**約2倍**に増加

うち、糖尿病性腎症が原疾患の透析患者数は**約3.5倍**に増加



神戸市国民健康保険においても、糖尿病性腎症が透析患者における主要原疾患第**1**位（約**44.7%**）



背景：腎症のステージ

病期別治療内容

透析、インスリン注射、投薬
食事療法（タンパク質制限）
運動制限、生活制限

インスリン注射、投薬
食事療法（タンパク質制限）
運動制限、生活制限

投薬
食事療法（タンパク質制限）
運動軽度制限

投薬
食事療法
運動軽度制限

投薬
食事療法
運動療法

病期別医療費

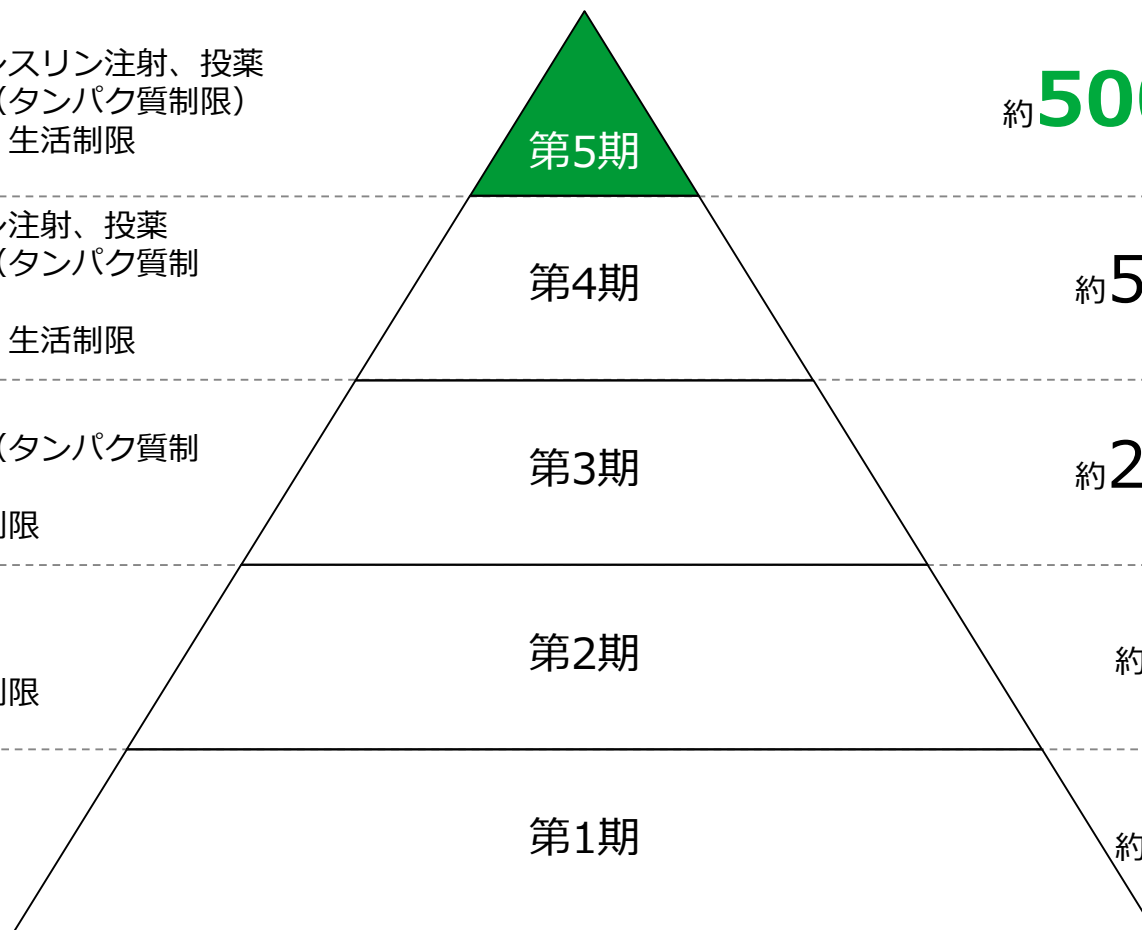
約**500**万円/年

約**50**万円/年

約**25**万円/年

約**5**万円/年

約**5**万円/年



神戸市におけるSIBを活用した糖尿病性腎症等重症化予防事業の概要

事業内容

- 未受診および治療中断中の透析ハイリスク者を対象に保健指導プログラムを実施。
- プログラムでは、健診結果、生活習慣の聞き取りを実施し、腎機能低下や生活習慣病の重症化予防に関する目標を個人ごとに設定。
自身でのモニタリング（家庭血圧や体重測定の習慣化）、食事、運動、必要な者には服薬や節酒等について、助言。
- 保健指導プログラム修了率、生活習慣改善率、腎機能低下抑制率を成果指標として、委託料を支払い。

資金調達スキーム

- 神戸市から支払う業務委託料を事業者が信託設定。
- 事業者は信託受益権を資金提供者に売却し、資金を調達。
- 信託スキームの利用により、資金の受け渡しの負担軽減とプロジェクト全体の信頼性の向上を実現。

事業費

※予定額、税込み

約2,620万円

事業期間

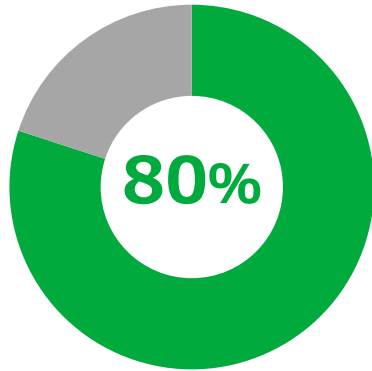
2017年7月～2020年3月（3年間）

2017年7月～2018年3月：保健指導業務を行う事業実施期間

2018年4月～2020年3月：評価業務を行う評価期間

期待される便益

- 市民のQOLの向上
- 治療にかかる医療費の適正化
- 死亡・通院・入院による逸失所得の削減

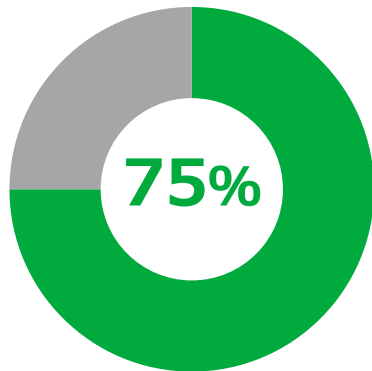


① **プログラム修了率** = $\frac{\text{プログラム修了者}}{\text{事業対象者}} \geq 80\%$

プログラム修了者、事業対象者からはプログラム開始後に除外基準該当する参加者を除く。

以下、生活習慣改善者、腎機能低下抑制者も同様に除算。

※除外基準（例） 1型糖尿病・癌の診断を受けた者、腎臓移植を受けた者

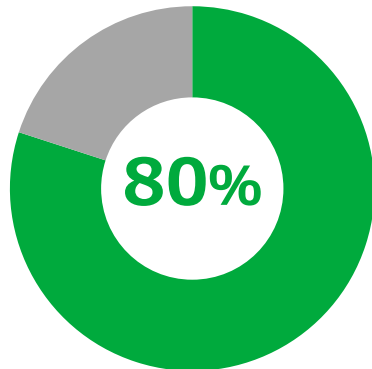


② **生活習慣改善率** = $\frac{\text{生活習慣改善者}}{\text{プログラム修了者}} \geq 75\%$

①食事療法、②運動療法、③セルフモニタリング、④薬物療法の4分野における行動の変化を測定。

4分野ごとに、プログラム修了者のうち行動の変化があったと評価される者の割合（改善率）を算出。

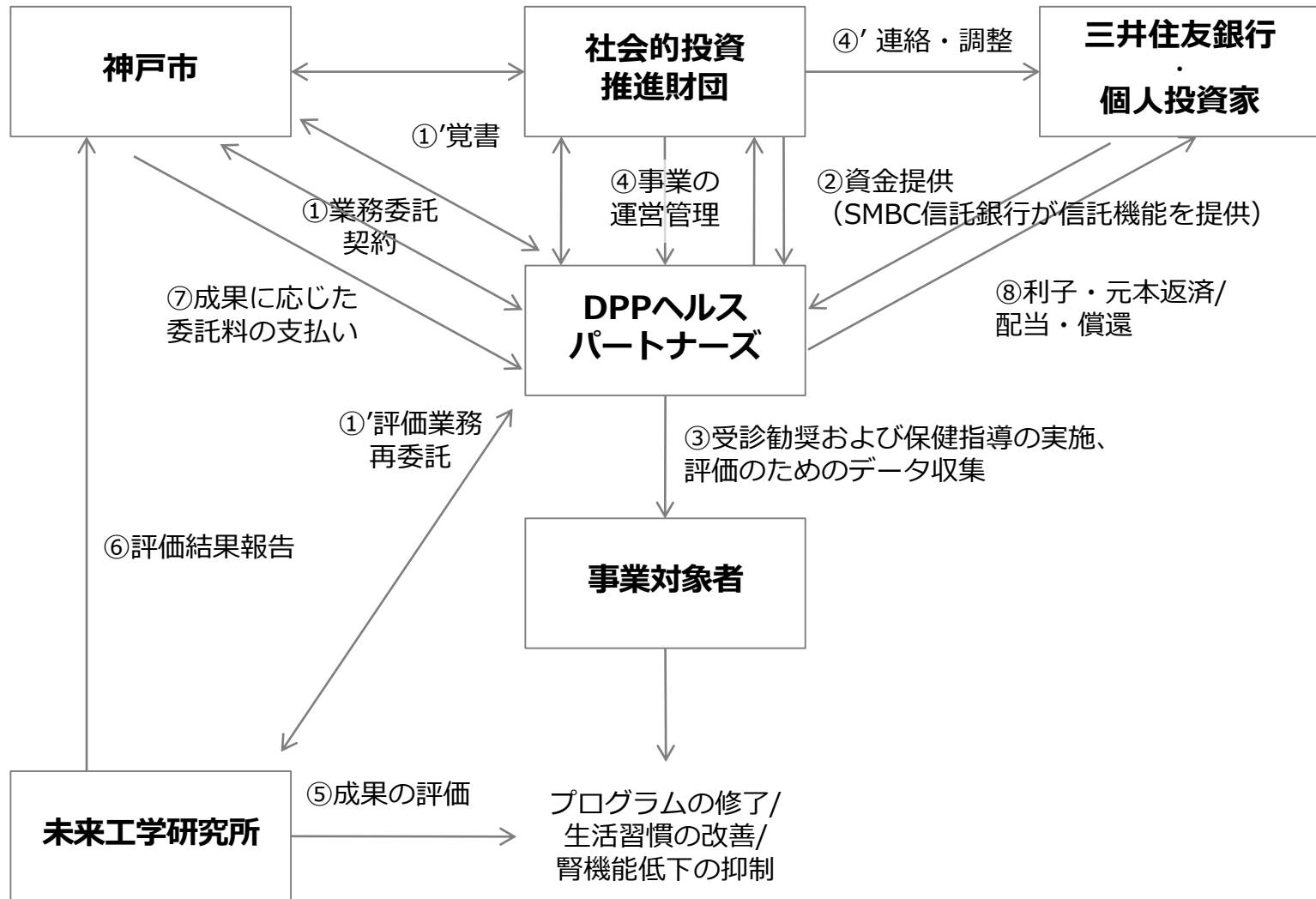
4分野の改善率を単純平均し、単一の生活習慣改善率を算出。



③ **腎機能低下抑制率** = $\frac{\text{腎機能低下抑制者}}{\text{生活習慣改善者}} \geq 80\%$

国民健康保険被保険者の平均的なe-GFR値の経年変化率とプログラム修了者のe-GFR値の経年変化率を個人単位で比較し、前者よりも腎機能の低下率が低かった者を、本事業の結果腎機能の低下が抑制できた者（＝腎機能低下抑制者）と判断し、算出。

事業実施体制



SIBを活用した糖尿病性腎症等重症化予防事業の取り組み状況

募集～支援継続人数

100名 → 345名 → 109名 → 105名

募集人数

参加希望者数



支援開始人数

支援継続人数
2018年1月末時点

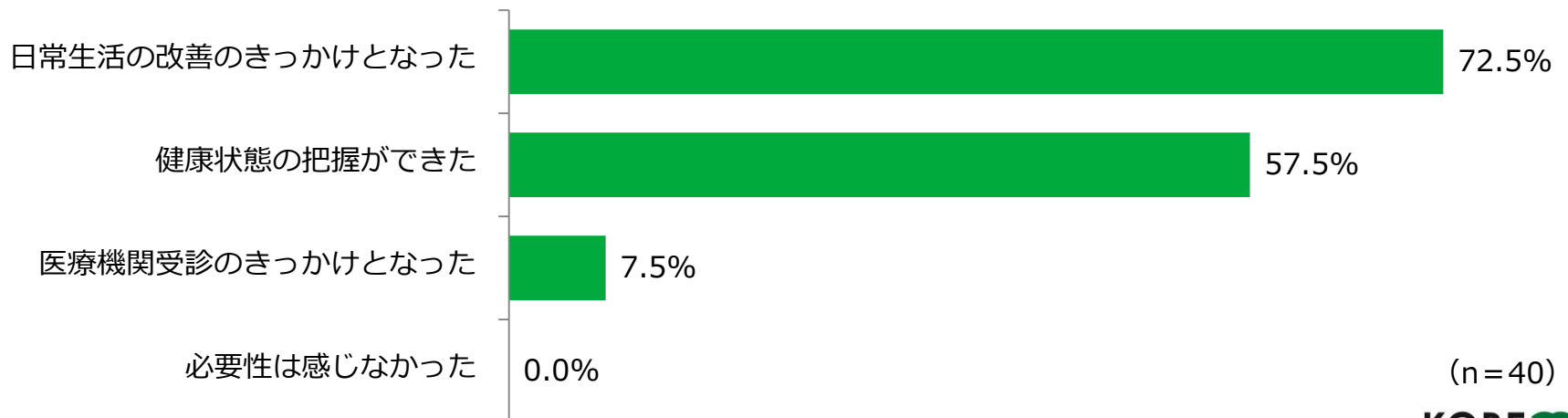
実施状況

重症度の高い被保険者から優先して予約

- 2018年3月まで、面談による指導2回、電話等による指導10回を実施。
- プログラム参加者には、体重減少、運動習慣の獲得、食事内容の改善、医療機関への受診など行動変容がみられる。

アンケート結果抜粋（2018年2月実施）（速報値）

Q.保健指導に参加した感想をお聞かせ下さい。



(n=40)

糖尿病性腎症等重症化予防事業のスケジュール

- 2018年2月より、中間評価を実施。保健指導プログラム修了率、生活習慣改善率を調査及び評価。
- 2020年1月より、最終評価を実施予定。保健指導プログラムによる腎機能低下抑制率を調査及び評価。
- 中間評価及び最終評価は公益財団法人 未来工学研究所が実施。

神戸市におけるSIBの今後の展開

- 事業の実施状況や参加者から寄せられている声から、保健指導プログラム修了率及び生活習慣改善率について高い成果が期待できる。
- 腎機能低下抑制が確認できれば、事業の継続及び拡大を検討。
- 次のSIB事業案件について、庁内および関係機関と検討を開始。
- 本市の進める「認知症の人にやさしいまちづくり」実現に資する介護プログラムや、「業務の省力化・生産性向上」のための市役所業務改革などへの展開を検討している。

SIB普及にかかると課題と提案

SIB事業は**予算化**
において課題がある

成果報酬を含めた
予算が必要

地方自治体の
財政負担を抑制

⇒ 予算化のハードルが高い

⇒ 庁内の合意形成を
スムーズに

資金提供者へのリターン、
SIB運営費（評価経費・信託
報酬など）の原資

成果
報酬

補助金
交付金

委託
事業費

委託
事業費

委託
事業費

通常の
委託事業

SIBによる
委託事業

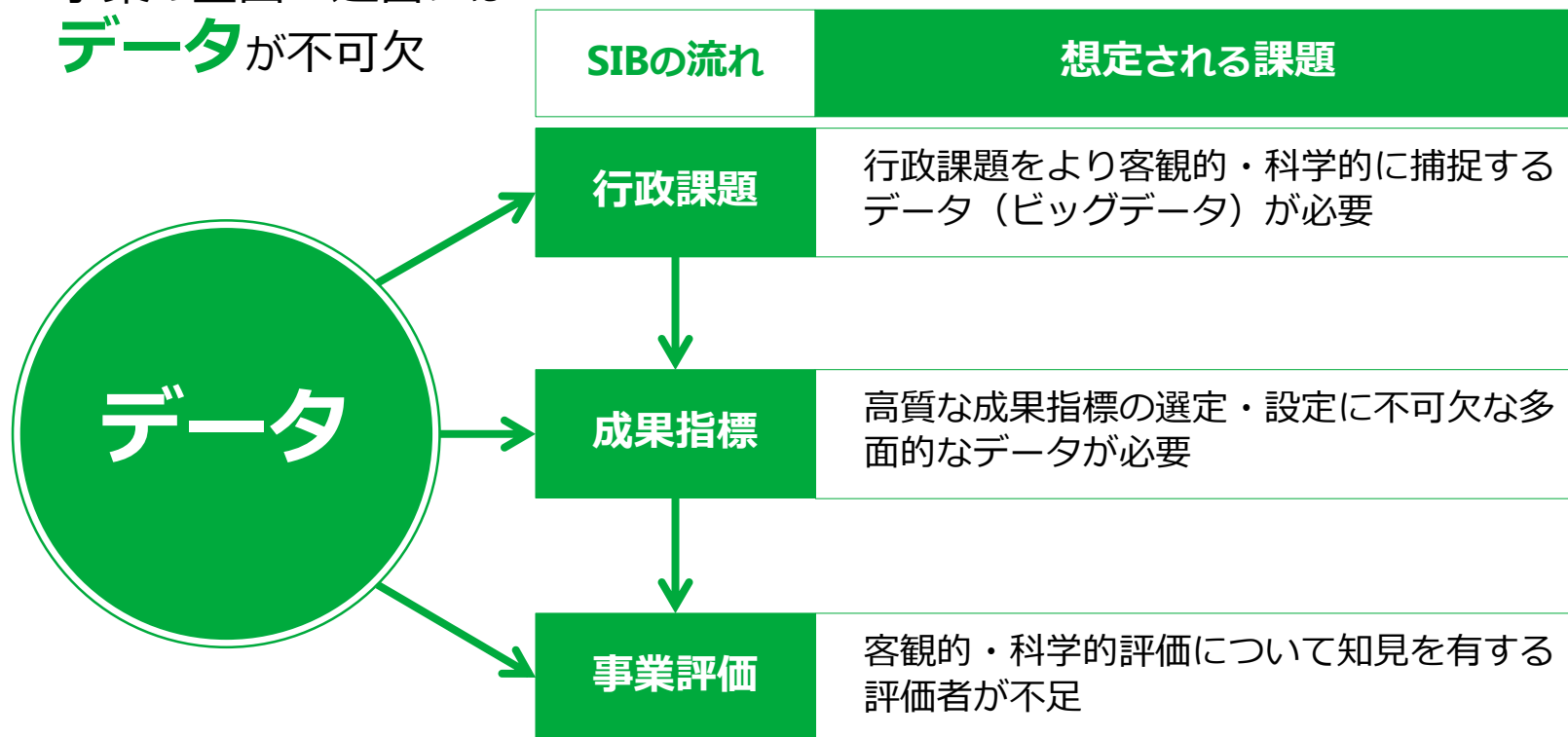
神戸市
提案

SIB普及のための提案

- 地方自治体の財政負担軽減のため、事業の便益を享受する国や都道府県からの補助金・交付金などが必要。
- 複数年度にわたる事業を行う場合もあるため、補助金・交付金の執行について、柔軟な対応が可能な制度設計が必要。

例：補助金・交付金の複数年度にわたる確実な確保・執行、国・都道府県による基金創設など

SIB事業の企画・運営には
データが不可欠



SIB普及のための提案

- 地方自治体が行政課題をより客観的・科学的に捕捉するとともに、高質な成果指標を設定する際に必要となるデータの組成・収集を促進する支援措置が必要。
- 第三者評価者となりうる専門的な知見を有する人材の育成を促進するため、育成機関（大学等）への支援措置が必要。

KOBE 
UNESCO City of Design